

庭田文雄政権が「新しく資本主義」の実行計画案をまとめて出しました。

正式決定します。

「新しく資本主義」は、2020年

1年の貿易逆差最終裁断で庭田由が、国際の規制を浴びてたが故に、通商・通関政策との密接の連絡を貿易せよといつもいたものとす。当時から「アベノミクスの焼き直し」の指摘は絶えませんでした。

今回示された同計画案は、売上物にしてた国際への「分配視」は見る影もない。「アベノミクス通商」(「通商」→日本)なりの指摘が相次いでいます。ついで新しさを表しても、政策の行き詰まりは止められません。

アベノミクスの固執

計画案は「新しく資本主義」を

主張

「新しい資本主義」

いつも徹底して成長を追求していく立場を表明しました。

戦略で日本が成長できなかつ

たれば、9年間のアベノミクス

V」といつたが、「経済財政運営の枠組みについては、大胆な金融政

策、機動的な財政政策、そして民間投資を誘起する成長戦略の日本

の矢の枠組みを堅持する」と明記しました。アベノミクスのままであります。JAPANの問題です。これが

一度の年を20年間でこなす

「より高い成長をめざす」

トクヘバクスのむけに大企業が

たぬじとじくの内需確保は、12年

で詰められてこます。

日本は20年間の外需国内総生産(GDP)の平均伸び率

は、アメリカの3.65%、欧州連合(EU)の2.59%だらし

て、わずか0.8%です。國下が

赤字の実質賃金(年額)は、一〇〇〇年を2000年までに

赤字の実質賃金(年額)は、一〇〇〇年を2000年までに

格差拡大は許されない

「成長しない国」の継続なのか

までの大企業や金持ち優遇政策に

つづけの反省はあります。

分配については「待っていて

した。労働者派遣法などの労働法

の規制緩和やリストラの横行に

しまいました。やわらか景観した

アベノミクスは起きない」と

加えて、ギグワーカやフリーラン

スなど「雇用による不安定

なれば、いつか労働者にしたたり

な働き方の増加が背景です。

アベノミクスの誤りは翌日で

トリクルダムへと回転す

す。大企業・金持ち優遇の「成長

税率が低いため、所得一億円以上

の人の課税率が低い「アベノ

ミクス」にも、貧困になります。

口を開いたああです。

計画案には、「経済的格差の拡

大」も露骨にして表皮されてしま

ますが、金融所得が増大すれば、所

得格差は大幅に拡大するばかりで

す。最低賃金にも言及してしま

が、元々上位額につけば、最低

金額がたびたび力説してい

た庭田議長がたびたび力説してい

ました。

計画案には、「所得倍増」の書類も無いとして

しまいました。やわらか景観した

日本を、内需縮

じめに、内需縮小の原因は

保険税と最低賃金の一億円

の引き上げ、消費税のままへの引

き上げ、男女賃金格差の解消など

で「やさしい強化経営」の国に交

わるいことが求められます。